

「天のつぶ」栽培暦

栽培地帯：県内の平坦地域（標高300m以下）

品質目標
玄米タンパク質含有率 6.4%（水分15%換算）
検査等級 1等

3月	3月	4月	4月	5月	5月	6月	6月	7月	7月	8月	8月	9月	9月	10月	10月
下旬	中旬	中旬	下旬	中旬	中旬										
上旬	上旬														
下旬	中旬	中旬	下旬	中旬	中旬										

生育

減数分裂期

幼穂形成始期

高分けつ期

最分けつ期

移植期

分けつ期

出穂期

成熟期

播種

育苗管理

田植え

除草剤散布

いもち病防除

葉いもち

穂いもち

穂肥

秋耕

収穫乾燥調製

塩水選

浸種

催芽

耕起

代かき

箱施薬散布

（殺虫・殺菌剤）

土壌改良剤

基肥施用

カメムシ防除

いもち病防除

葉いもち

穂いもち

穂肥

カメムシ防除

いもち病防除

葉いもち

穂いもち

穂肥

【水管理】

活着まで深水

浅水管理で分けつ促進

中干し

間断かんがい

（低温時深水管理）

間断かんがい

落水

栽培上の要点

土づくり

- 収穫後の秋耕による稲ワラの鋤込み、または、堆肥や土壌改良資材を施用して地力向上に努める。
- 種子予措**

 - 購入種子も必ず塩水選（比重1.13）を実施。
 - 移植**

 - 栽植様式は30×16cm（坪70株）が基本。（株間20cm以上の疎植にしない）
 - 風のない暖かい日に移植する。活着したら浅水管理とし有効茎の早期確保に努める。

施肥体系

- ①窒素施肥量 基肥6kg/10a＋穂肥2kg/10a
- ②穂肥は幼穂形成始期。
- ③幼穂形成始期の葉色（SPAD502値）が40を超える場合は、穂肥量を減らす。
- ④多肥栽培は、食味と品質低下の原因となるので、絶対に行わない。

いもち病防除

- 「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき、予防防除する。
- 低温時の水管理**

 - 穂首分化期以降に低温が予想される場合は、速やかに深水管理し幼穂の保温に努める。
 - 夏高温時の水管理**

 - 昼間灌水または掛け流し、夜間落水。

カメムシ防除

- 畦畔の草刈り
- 出穂14日前までに実施。
- 出穂後は草刈りを行わない。
- 散布剤による防除
- 「福島県農作物病害虫防除指針」に基づき、防除する。

刈り取り適期・・・稲の黄化程度を確認！

- 稲の黄化はすむが、穂首・枝梗の「青み」が残る。
- 刈り取り適期判断基準

項目	会津	中通り	浜通り
出穂日からの種算気温	1000℃	1000℃	1000℃
稲の黄化程度	90%以上	85～90%以上	85%以上

生育指標

時期	項目	指標値
成熟期-収穫期	収量(kg/a)	65～70
	登熟歩合(%)	87～90
	穂数(本/m ²)	420～470
	稲数(万粒/m ²)	3.2～3.5
出穂期	止葉の葉色(SPAD502値)	34以下
	茎数(本/m ²)	460～520
幼穂形成始期	葉色(SPAD502値)	38～40
	葉色(SPAD502値)	600～650

●稲ワラは野焼きをしないで、石灰窒素や腐熟促進剤とともに秋に鋤込みましょう！福島県版GAPの取り組みを進めましょう！



福島県オリジナル水稲品種

天のつぶ

天にまっすぐ 天のつぶ

天のつぶ

穂が出るときに天に向かってまっすぐ伸びる力強さと 天の恵みを受けて豊かに実る一粒一粒が特徴です。



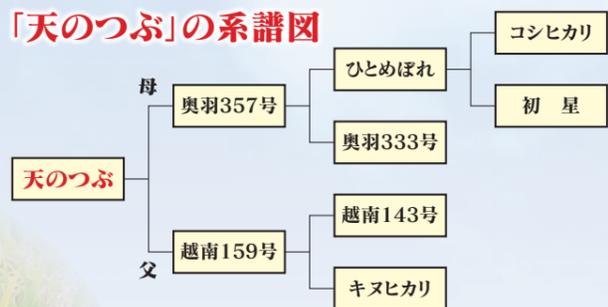
福島県水田畑作課 TEL.024-521-7360
又は各農林事務所（農業振興普及部・農業普及所）
種子はJA又は米集荷業者にご注文ください。

電源立地地域対策交付金事業

育成経過

「天のつぶ」は、平成7年に、福島県農業試験場(現福島県農業総合センター)において、栽培しやすく、玄米品質が良好な良食味品種を目指し育成を始め、15年の歳月をかけた完成した県のオリジナル品種です。

「天のつぶ」の系譜図



「天のつぶ」の育成経過

平成7年：母「奥羽357号」×父「越南159号」を交配
 平成10年：「郡系322」の系統番号を付与
 平成12年：「福島9号」の地方番号を付与
 平成13~17年：水稻奨励品種決定基本調査で試験栽培を実施
 平成18~21年：水稻有望系統現地適応性試験で試験を行い、育成を完了
 平成22年：県の奨励品種に決定、名称を「天のつぶ」に決定

品種特性

倒れない、いもち病に強い、収量・品質が良い

稈長が「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」より短く倒れにくい品種です。

出穂期(穂が出る時期)は、「ひとめぼれ」より2日程度遅く、「コシヒカリ」より5日程度早い品種です。

いもち病(穂いもち)に強く、栽培しやすい品種です。

品 種 名	天のつぶ	ひとめぼれ	コシヒカリ
早 晩 性	中生晩	中生	中生晩
出 穂 期 (月日)	8月10日	8月8日	8月15日
成 熟 期 (月日)	9月24日	9月21日	10月2日
稈 長 (cm)	72	84	92
穂 長 (cm)	17.4	18.0	17.4
穂 数 (本/m ²)	458	510	425
倒 伏 (0~5)	0	1.8	2.4
耐 倒 伏 性	強	やや弱	やや弱
稈 の 剛 柔	やや剛	中	中
穂 発 芽 性	難	難	難
障 害 型 耐 冷 性	やや強	極強	極強
いもち遺伝子型	<i>Pia, Pii</i>	<i>Pii</i>	<i>+</i>
葉 いもち	やや弱	やや弱	弱
穂 いもち	強	やや弱	弱
収量・標肥(kg/a)	62.4	61.9	57.7
玄米千粒重(g)	22.8	22.4	21.5



▲左から「天のつぶ」、「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」

※調査地:福島県農業総合センター ※調査年次:1999~2003年、2008~2009年

普及地帯、作付面積及び生産量の推移

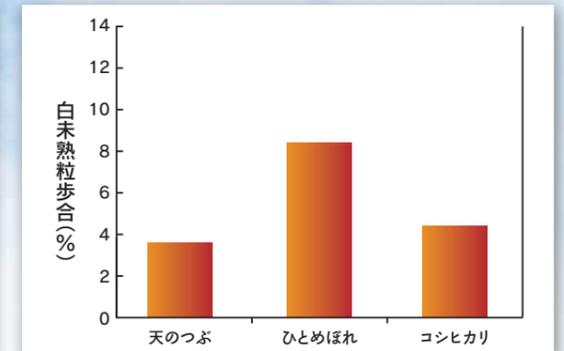
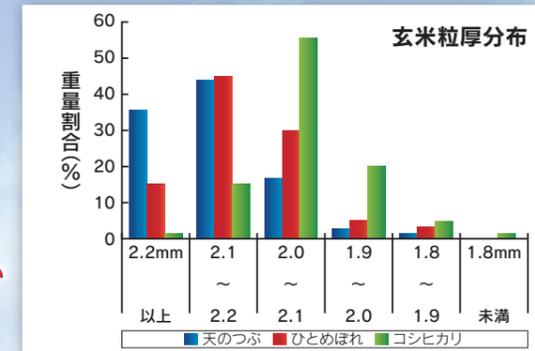
普及地帯は標高300m以下(障害型冷害を避けるため)です。

平成25年度の作付面積は、2,000haで、生産量は12,000tを見込んでいます。

年 次		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
作付面積 (ha)	計画	—	60	800	2,000
	実績	0.9	39	749	2,000
生産量 (t)	計画	—	300	4,000	12,000
	実績	5	211	3,165	

収量及び玄米品質

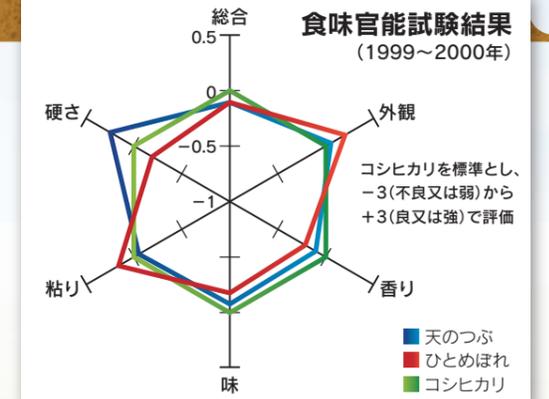
粒は「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」より大きく、収量は「コシヒカリ」よりも優れます。また、玄米品質は、等級低下の原因となる白未熟粒の発生が少なく、「ひとめぼれ」「コシヒカリ」と比べても良好です。



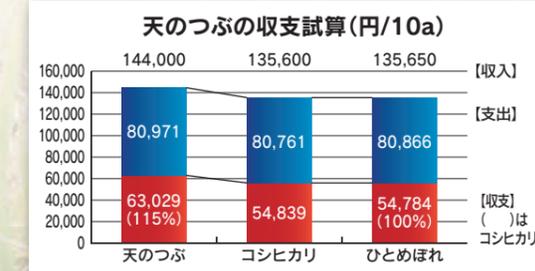
食味

コシヒカリ・ひとめぼれに匹敵する美味しさ

「天のつぶ」はしっかりとした食感で粘りもあり、「ひとめぼれ」「コシヒカリ」と同等の良食味です。



収益性



「天のつぶ」の収量が高いことから、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」よりも高い収益が期待できます。(多肥栽培にすると、青未熟粒の発生が多くなるので注意が必要)

福島県農業経営指標をもとに試算

- ▼収量は「コシヒカリ」540kg、「天のつぶ」600kg「ひとめぼれ」570kgで積算
- ▼価格は、中通りの平成24年産米JA概算金を参考に積算

生産者の声

農家の皆さん、あなたも作ってみませんか?

Aさん(中通り)

- 天のつぶはなんと、言っても作りやすかった。
- 倒伏しない上に収量も取れた。
- コシヒカリとひとめぼれの間で収穫出来て、作業性も良い。
- 食味も良いと思う。

Bさん(会津)

- 全く倒伏しなかったため栽培しやすい。
- 収穫作業もスムーズだった。
- 収量が多くて、良かった。
- 食べた時に、粒がしっかりしていておいしい。

Cさん(浜通り)

- 天のつぶは作りやすくて、収量が多いのがいいですね。

天のつぶの特徴